

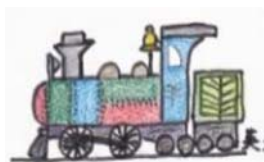
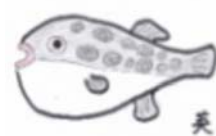
阿部博 展覧会〈曾田英夫さんカット集「人笑い 花咲き 鳥歌う」〉



笑タイム始まる



マスク時代に



同巢会

ジョークサロン会報「伝笑鳩」の400号発刊を前にして、同紙の名脇役を主役に抜擢しスポットライトを当ててみました。

「伝笑鳩」には、小さく「英」のサインが付された曾田英夫さんのカットが毎月4、5点掲載されています。ボールペン、サインペン、色鉛筆を使って描かれたカットは、曾田さんのお人柄のままの温かみと飄々とした味わいが特長です。

カットは2017年（平成29）3月から掲載が始まり、現在も続いています。いままで掲載されたカットが幾つあるのかが気になり、2022年（令和4年）10月までのバックナンバーにあたり確認してみました。すると、336カットありました。さらに何を描いたかを大雑把に分類し数えてみると、多い順に、笑う人(68)、花(59)、暮らし(40)、野菜(32)、食(26)、鳥(26)、動物(25)、果物(22)、魚(21)、乗り物(12)、虫(5)となっています。

平成から令和へ、コロナ禍、ウクライナ侵攻。大きく時代が変化した前後でカットも変化しているように見えますが、変わらないことがあります。マスクをするようになって「笑う人」は変わりません。人は笑い、花は咲き、鳥は歌う。

チャップリンはつねに語っていました。

「生きることは素晴らしい」。そして「笑うことは素晴らしい!」と。

曾田さんは例会の締めでいつも大きな声で工夫を凝らされた狂歌で呼びかけてくれます。

「……大いに笑おう、ジョークサロンで」と。

*全336カットをPDF〈人笑い 花咲き 鳥歌う—「伝笑鳩」カット集〉にまとめました。ホームページからダウンロードできます。